

❻稲荷山古墳（市指定史跡）
Inariyama Ancient Tomb
(Historical Site designated by Ichinomiya City)

墳丘の規模は径40ｍ、高さ6.64ｍの二段築成の円墳とされる。周溝跡は確認できない。丘上には神明社が祀られており、見晴らしがよい。（三ツ井8丁目）



❼馬見塚遺跡（県指定史跡）
Mamizuka Remains
(Historical Site designated by Aichi Pref.)

馬見塚遺跡は縄文晩期から弥生、古墳時代にわたる遺跡で大正15年(1926)に発見された。主な出土品は合わせ口甕棺、単棺、打石斧、磨石斧、石皿、石棒など各種の石器が出土している。出土品は現在、市博物館に展示されている。（馬見塚）



❽油田遺跡
Aburaden Remains

この地にむかし真清田大神が降臨し、後年現在地に遷座したと言い伝えられている。

（多加木2丁目）



❾田所遺跡
Tadokoro Remains

東海北陸自動車道建設に伴う発掘調査の結果、古墳時代の水田跡、中世の墓地跡が検出され、三つの時代にわたる複合遺跡であることが確認された。（田所）



❿照手姫袖掛け松
Terute-hime Sode-kake (hanging kimono) Pine

室町時代中ごろ、浄瑠璃や歌舞伎などで名高い照手姫が常陸(茨城県)の城主、小栗判官助重と京都へ向かう鎌倉街道沿いの同所で、小袖を掛けて休息したと伝えられている。（牛野通2丁目）



⓫七つ石〈剣研石〉（市指定史跡）
Seven Stones
(Kentogi〈Sword-sharpening〉Stones)
(Historical Site designated by Ichinomiya City)

日本武尊が熱田の森(熱田神宮)から伊吹山に向かう途中、この石で剣を研いだという伝説から「剣研石」ともいわれる。

(大和町戸塚)



⓬笠懸の松〈下り松〉
Kasa-kake (Hat-hanging) Pine Tree (Hanging Pine Tree)

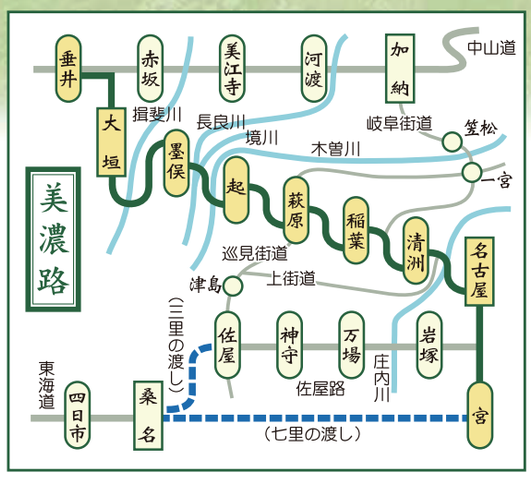
この地は、日本武尊が笠を懸けて小休止した跡といわれる。

(大和町宮地花池)

美濃路 Minoji

美濃路は東海道の宮宿(名古屋市熱田区)から名古屋・清洲・稲葉・萩原・起・墨俣・大垣の七宿を経由して、中山道の垂井宿(岐阜県不破郡)を結び、東海道や中山道などの五街道に付属する脇往還として江戸幕府の道中奉行の支配下に置かれていた。美濃路が多く利用されたのは、東海道の難所である鈴鹿峠と、桑名と宮の間の海上交通、いわゆる「七里の渡し」を迂回できたためである。

また、将軍の上洛や多くの西国の大名の参勤交代に使われたほか、朝鮮通信使や琉球使節の通行や献上品であった茶壺や象の移動に、そして庶民の旅にとさまざまな人々に利用され、大いに発展した。



起宿 Okoshi Juku



起宿は現在の一宮市起近辺で、木曽川の起渡船場のある宿場町で水陸交通の拠点として賑わい、起村、富田村、西五城村、小信中島村、東五城村が宿役を負担していた。本陣・脇本陣が各1軒、旅籠屋22軒で渡し場を控えていること、美濃路の行程のほぼ真ん中に当たることから休泊する大名も多かった。

また、将軍や朝鮮通信使等の渡河に際しては木曽川に船橋を架けた。本陣・脇本陣ともに下町にあり、本陣は加藤家、脇本陣は林家が務め、林家は船庄屋、村庄屋も兼帯した。脇本陣は明治24年(1891)の濃尾地震で倒壊したのち、大正初めごろ建てられた旧林家住宅(国登録有形文化財)が尾西歴史民俗資料館別館として公開されている。 (起)

⑬起宿脇本陣跡 (市指定史跡)

Site of Okoshi Juku Waki Honjin
(Historical Site designated by Ichinomiya City)



起宿脇本陣跡の庭園▶
(国登録記念物)



◀萩原宿本陣跡

萩原宿 Hagiwara Juku

萩原宿は現在の一宮市萩原町で萩原、西之川の2村と串作村の一部からなり、本陣・脇本陣が各1軒、旅籠屋17軒で家数、人口共に美濃路7宿中、最も規模の小さい町である。本陣・脇本陣とも上町にあり、本陣は森権左衛門が、脇本陣は森半兵衛がそれぞれ世襲した。明治24年(1891)の濃尾地震は萩原宿に大きな被害をもたらした。現在、江戸時代の面影は薄れているが、萩原商店街として人々で賑わう町並となっている。

(萩原町萩原・串作)



⑭起渡船場跡（県指定史跡）
Site of Okoshi Ferry (Historical Site designated by Aichi Pref.)

起渡船場は木曽川の渡しで、川幅540間余（約982ｍ）、尾張藩船手奉行の管轄下で、起宿の船庄屋が治めた。起の渡しには上流から定渡船場、宮河戸、船橋河戸の3ヵ所の渡し口があり、定渡船場は常用された渡し口で、幾度も改修を受けた常夜灯がある。江戸初期の将軍家や朝鮮通信使など大行列の通行の際には、寄船と称し近郷の川沿いの村々から船を徴集し、270隻以上の船をつなげた船橋を架けた。（起地内：写真は定渡船場）

⑮冨田一里塚（国指定史跡）
Tomida Milestone
(Historical Site designated by Japan)

美濃路で唯一、道の両側に塚が現存し、榎の大木が今なお生い茂る。昭和12年（1937）に国の史跡に指定され、西側には小公園がある。
（冨田）



◀左塚（西塚）　▼右塚（東塚）





⑯高木一里塚
Takagi Milestone

明治初年まで道の両側に塚があり榎も残っていたが、いつの間にか円形の田になり、現在は塚が残っていない。
（萩原町高木）



⑰天神の渡し跡
Site of Tenjin Ferry

日光川はかつて木曽川の主流のひとつで、慶長年間（1596～1615）まで、ここに渡船場があり「天神の渡し」と呼ばれていた。のちに川幅が狭められて渡しは廃止された。
（西萩原）



⑱尾西歴史民俗資料館
Bisai Museum of History and Folklore

江戸時代、美濃路の宿場町として栄え、その後、織物の町へと変化発展してきた尾西の歴史を、1「河戸のある町場」、2「渡し場のある宿場」、3「機音のする町で」、4「伊吹おろしのもと土にまみれて」の4つのテーマのもとに模型やDVDなどの映像とともに各種の資料を展示している。年数回地域に根ざした特別展やコーナー展示を行っている。
（起）

美濃路宿勢一覧
（天保14年〈1843〉）

	東海道	美濃路							中山道
宿　名	宮　宿	名古屋宿	清洲宿	稲葉宿	萩原宿	起　宿	墨俣宿	大垣宿	垂井宿
家　数	2,924軒	1,157軒	521軒	336軒	236軒	887軒	338軒	903軒	315軒
人　口	10,342人	4,188人	2,545人	1,572人	1,002人	4,094人	1,317人	5,136人	1,179人
旅籠数	248軒	0軒	21軒	8軒	17軒	22軒	10軒	11軒	27軒
本　陣	2軒	0軒	1軒	1軒	1軒	1軒	1軒	1軒	1軒
脇本陣	1軒	0軒	3軒	1軒	1軒	1軒	1軒	1軒	1軒
問屋場	1か所	1か所	1か所	3か所	2か所	2か所	1か所	1か所	3か所
助郷村	20か村	0か村	20か村	21か村	27か村	20か村	19か村	22か村	9か村


高知県立高知城歴史博物館所蔵

山内一豊 1545－1605
Yamauchi Kazutoyo

安土桃山時代の戦国武将・山内一豊は、天文14年（1545）、岩倉織田氏の家老をつとめ、尾張国黒田城を預かっていた山内盛豊の次男として生まれ、弘治3年（1557）、黒田城が夜襲を受けるまでの13年間をこの地で過ごした。

永禄2年（1559）、織田信長の岩倉城攻めにより父盛豊が死去してからは岩倉も追われ、織田浪人として各地を流浪したといわれる。

永禄10年（1567）から元亀年間に至る間に織田信長に仕え、天正元年（1573）、越前刀根山の朝倉追撃戦で朝倉家でも剛勇の誉れ高かった三段崎勘右衛門を組討の末に倒し、その功績が認められ信長から近江唐国（滋賀県長浜市）四百石を与えられ領主となった。

その後、豊臣秀吉、徳川家康の尾張三英傑に巧みに仕え、慶長5年（1600）の関ヶ原の合戦後には土佐一国を与えられ20万石の領主となった。

山内一豊関係略年譜

天文14年（1545）	黒田城（現在の一宮市木曽川町）にて誕生。
弘治 3年（1557）	黒田城が夜襲にあい、父盛豊は負傷、兄十郎が討死。
永禄 2年（1559）	織田信長が織田信賢の岩倉城を落とし、尾張を統一。 一豊の父盛豊、織田信賢方にあって戦死。
永禄 3年（1560）	元服し伊右衛門一豊と名のる。
元亀元年（1570）	朝倉義景攻めに参加、金ヶ崎城の戦いに参戦する。
天正元年（1573）	織田軍として越前刀根山の朝倉追撃戦に加わる。 この時、敵将から顔面に矢を受けながらも奮戦する。 近江唐国（滋賀県虎姫町）に4百石を与えられる。
天正 3年（1575）	秀吉に従い長篠の戦いに参戦する。
天正11年（1583）	秀吉に従い亀山城戦、賤ヶ岳戦に参戦する。
天正12年（1584）	秀吉に従い小牧・長久手合戦に参戦する。 近江長浜に5千石を与えられる。
天正13年（1585）	秀吉に従い紀州征伐に参戦する。若狭高浜に1万9千8百石を与えられる。秀吉に従い越中戦に参戦する。近江長浜に2万石を与えられる。羽柴秀次の老臣となる。
天正18年（1590）	秀次に従い、伊豆山中城を攻める。 遠江掛川5万石を与えられる。
文禄元年（1592）	山内忠義（二代藩主）生まれる。
慶長 5年（1600）	関ケ原の合戦。小山軍議で掛川城明け渡しを建議する。 土佐一国の領主となる。
慶長 6年（1601）	甲浦に上陸、浦戸城へ入城する。
慶長10年（1605）	9月20日、61歳で没する。真如寺山（筆山）に葬られる。



⑲黒田城跡
Site of Kuroda Castle

戦国時代からこの地にあった城で七代の城主の記録が残っている。中でも土佐20万石の大名に出世した山内一豊はこの城で生まれ（大正6年〈1917〉愛知県が建てた「黒田城趾」碑の裏面に銘記）、13歳でこの城を離れたとされる。

また一豊顕彰会が設置した、偉人を讃えた「一豊立志像」がある。

（木曽川町黒田）



⑳木曽川資料館
Kisogawa Museum of Folklore

山内一豊を中心に浅野長政、兼松正吉、奥村永福など一宮市ゆかりの戦国武将、史跡などを紹介している。

建物は大正13年（1924）に竣工した旧木曽川町会議事堂で、平成18年（2006）国の登録有形文化財となった。

（木曽川町黒田）



㉑聖徳寺跡（市指定史跡）
Site of Shotokuji Temple
(Historical Site designated by Ichinomiya City)

戦国時代、浄土真宗の大寺院であった聖徳寺は、尾張・美濃国境の当地にあった頃、織田信長と斎藤道三が初めて会見した場所として知られている。　（冨田）



㉒浮野古戦場跡
Ancient Battlefield of Ukino

永禄元年（1558）清洲城主・織田信長は岩倉攻略をはかり、これに対して岩倉城主織田信賢が、応戦、ここに信長勢に加担する犬山城主・織田十郎左衛門信清が加わり三軍が浮野において衝突した。この合戦で討死した者をとむらった「浮荊首塚」跡に「浮野合戦場址」の碑が建てられている。

（千秋町浮野）

㉓一宮城跡
Site of Ichinomiya Castle

この城に住んでいた関氏は平重盛の子孫で、伊勢関氏の一族である。関長安は、はじめ織田信長に、のちに秀吉に仕え、天正12年（1584）小牧・長久手合戦で討死した。この城には、豊臣秀吉も立寄ったことがあったが、のちには織田信雄の家来の不破源六広綱の城となり、天正18年（1590）広綱が去ってから廃城になった。　（本町三丁目）





㉔北方代官所跡
Site of Kitagata-Daikansyo

天明元年(1781)に北方堤防上に北方代官所（陣屋）が設置され、その管轄は、尾張（愛知県）、美濃（岐阜県）の両国にまたがっており、併せて川並奉行所も置かれていた。　（北方町北方）



㉕重吉城跡
Site of Shigeyoshi Castle

尾藤源内重吉の城と伝えられる。天正12年（1584）、小牧・長久手合戦の時、徳川・織田軍の小牧山の付城として清洲と小牧を結ぶ連絡確保の役割を担っていた。

（丹陽町重吉）



㉖河田城跡
Site of Koda Castle

天正12年（1584）、小牧・長久手合戦の時、秀吉が小牧山の徳川・織田軍に対して構築した城砦の一つ。昭和38年(1963)に護岸工事のため湮滅した。（浅井町河田）



㉗奥村永福公出生地の碑
Birthplace of Nagatomi Okumura

戦国武将前田利家に仕え、数々の武勲をたてた奥村永福公の碑。前田家の命運をかけた戦となった、天正14年（1586）末森城の合戦での奥村公の功績は特に抜群であった。　（奥町）